

預言すること——勝利者の機能

聖書：I コリント14:1, 4後半, 12, 23-24, 31, 39

- I. I コリント第14章における預言することは、神とキリストのために語ること、神とキリストを語り出すことです。それは、神とキリストを人々に供給し分与することです：
- A. 預言することはまた、予言すること、前もって告げること、予告することです。
  - B. I コリント第14章では、預言することは、予言することを含んでいません——3, 24節。
- II. I コリント第14章の方法において預言することは、召会の集会の中で実行されます。そして召会の建造のためです——23-24, 4-5節。
- III. I コリント第14章の方法において預言することは、求めている人を、召会の建造のために卓越させます——12節。
- IV. すべての信者は、預言する能力を持っており、また預言する義務を持っています。そして、預言することを熱心に願い求めるべきです：
- A. すべての信者は、預言する能力を持っています——「あなたがたはみな一人ずつ預言することができる」——31, 24節。
  - B. すべての信者は、預言する義務を持っています——23-24節。参照、ローマ1:14-15。
  - C. すべての信者は、預言することを追い求め、尋ね求め、熱心に願い求めるべきです——I コリント14:1, 12, 39。
- V. I コリント第14章において、パウロはすべての聖徒に、召会の集会の中で預言するよう命じています：
- A. パウロはこの章の中でいくつかの動詞を用いて、聖徒たちに預言するよう励ましています：
    - 1. 追い求めなさい——1節。
    - 2. 願い求めなさい——1, 39節。
    - 3. 求めなさい——12節。
    - 4. 卓越するように——12節。
    - 5. 学びなさい——31節。
  - B. パウロは、すべての人が預言するよう勧めています：
    - 1. 「わたしは、あなたがたが『みな』……預言してもらいたいのです」

——5節。

2. 「あなたがたは『みな』……預言することができる」——31節。

3. 「『全員』が預言して」——24節。

4. 「彼は『すべて』の者によって良心が責められ」——24節。

5. 「『すべて』の者によって調べられ」——24節。

6. 「『それぞれ』の人に……があり」——26節。

**VI. わたしたちは、I コリント第14章の方法にしたがった預言の構成を見る必要があります：**

A. 第一に、わたしたちは、神、キリスト、霊的な事柄に対する認識と経験を持たなければなりません——参照、I ヨハネ1:3。

B. 第二に、わたしたちは言葉を持って、神、キリスト、霊的な事柄に対するわたしたちの認識と経験を語り出さなければなりません——I コリント2:13. I ペテロ4:11. エペソ6:19-20。

C. 第三に、わたしたちは神聖な照らしの下で、わたしたちのいる状況と環境に関する視力を持つ必要があります——参照、マラキ2:7. 啓1:20。

D. 第四に、わたしたちは、内住の霊の即時的な靈感が、わたしたちの霊を奮い立たせて語らせることを必要とします——II テモテ1:6-7. 4:22. I コリント14:32。

**VII. わたしたちは、エリサベツとマリアの預言の模範を見る必要があります：**

A. エリサベツの預言の模範は、ルカ第1章39節から45節に見られます：

1. これらの節の内容が示していることは、バプテスマのヨハネの母であるエリサベツが、神の臨在の中に、また主との交わりの中に生きて、主と恒常的で継続的な交わりを持ったということです。

2. これらの節はまたはっきりとわたしたちに示していますが、彼女は地上における主の動きに対して霊的な認識と関心を持っていました——参照、44節。

3. エリサベツがマリアのあいさつを聞いて、赤子が彼女の内側で躍ったとき、彼女は霊の中で奮い立たせられました——41, 44節。

4. 彼女は霊の中で奮い立たせられると、直ちに聖霊の即時的な靈感を受けました(41節後半)。そして彼女の霊を活用することによって、言葉を語りました(42節前半)。

a. エリサベツは預言したとき、自分の所にやって来たマリアを祝福しました——42, 45節前半。

b. エリサベツは霊を活用することによって、主が行なっておられる事を認識することができました——43節。

- c. エリサベツは霊を活用することによって、言葉を持って、ルカ第1章30節から37節で御使いが MARIA に語った事柄の成就を予言しました——45節。
- B. MARIA の預言の模範は、エリサベツのものよりもさらに深く、さらに高いです——46-55節：
  - 1. 第一に、彼女の霊は、神・彼女の救い主の中で歓喜しました。それから、彼女の魂は主を大きく表現しました——46-47節。
  - 2. MARIA の預言の言葉は、聖書に対する彼女の認識に基づいていました。彼女の預言は、旧約の引用から成っていました。
  - 3. MARIA の預言の言葉は、神に対する彼女の認識と経験に基づいていました——48-50節。
  - 4. MARIA の預言の言葉は、神が人々を取り扱うことに対する彼女の認識に基づいていました——51-53節。
  - 5. MARIA の預言の言葉は、彼女の祖先への神のあわれみ深い行ないに対する彼女の認識に基づいていました——54-55節。

#### VIII. わたしたちは、預言の基本的な構成要素を見る必要があります：

- A. 第一の構成要素は、聖書に対する個人的な認識です：
  - 1. わたしたちは、神の言に文字どおりに精通しなければなりません：
    - a. わたしたちは、神の言に文字どおりに精通しなければなりません。それは、主がマタイ第4章4節、7節、10節においてそうであったようにです——参照、申8:3. 6:16, 13。
    - b. わたしたちは、神の言に文字どおりに精通しなければなりません。それは、使徒パウロがローマ第1章17節、第3章4節、10節から18節においてそうであったようにです。
  - 2. わたしたちは、神の言の深い意味と霊的意義を認識しなければなりません：
    - a. 出エジプト第3章6節に対する主の理解は、マタイ第22章31節から32節に啓示されていますが、それは神の言の深い意味を認識することの例証です。
    - b. 詩篇第8篇4節から6節に対する使徒パウロの理解は、ヘブル第2章5節から9節に啓示されていますが、それはこの事のもう一つの例証です。
    - c. わたしたちはまた、詩篇第2篇7節に対するパウロの理解から、神の言の深い意味に対するパウロの認識を見ることができます。それは使徒第13章33節に啓示されています。

- d. 聖書の深い意味は、ヨハネ第3章16節にも見いだすことができます。それは、聖書の中で最も深い節の一つです。簡単に言えば、この意味は、創世記第1章に啓示されている三一の神が、サタンに属するこの世にいる蛇の性質を持つ人々を愛して、彼のひとり子、すなわち、神聖な三一の第二を、肉体に成ることにおいて彼らに与え、蛇の形において彼らのために死んで、彼らの身代わりとなり、命を与える霊と成ったということです。また、彼を贖い主として信じる人々が、命を与える霊としての彼ご自身によって再生されて、彼の永遠の命を持ち、神の多くの子たちとなり(ヨハネ1:12. ヘブル2:10)、また彼の多くの兄弟たちとなり(ローマ8:29)、彼のからだ、召会を構成し(エペソ1:23)、彼の増し加わりと彼の花嫁になり、彼を満足させ、表現するという事です。これは、啓示録第21章から第22章で啓示されている新エルサレムにおいて究極的に完成し、手順を経て究極的に完成された三一の神を現して、彼の永遠のエコノミーを成就します。
- e. 神の言の霊的意義に対するパウロの認識は、創世記第16章15節と第21章2節に対する彼の解釈において見ることができます。それはガラテヤ第4章22節から26節に啓示されています。このことはまた、詩篇第68篇18節に対する彼の解釈においても見ることができます。それはエペソ第4章8節から10節に啓示されています。

3. 聖書に対する個人的な認識を得ることにおいて、わたしたちはまた、神の言の中で霊的な照らしと霊的なビジョンを受ける必要があります——イザヤ1:1. 2:1. 13:1. 15:1. 参照、Iコリント14:26. 啓1:11. エペソ1:10. 3:9. Iテモテ1:4. ローマ15:16. Iペテロ2:5, 9。

B. 預言の第二の基本的な構成要素は、個人的な命の経験です——使徒5:20. Iヨハネ1:3。

C. 適切な預言を語り出すことにおいてわたしたちは、個人的な経験、証し、感覚、思想、意見、感情、そしてどのような人、事、物に対する反応にも、固執してはなりません。

#### IX. わたしたちは、預言の基本的な妨げを見る必要があります：

A. 預言することは、神とキリストのために語り、また神とキリストを語り出すことです。このように語ることは、神とキリストとの語る霊と協力することです——サムエル下23:2. 使徒6:10. 参照、ヘブル1:1-2：

1. その霊は、いつも用意ができており、わたしたちと共に、またわたしたちを通して語ることを期待しています。

2. しかしながら、わたしたちはいつもその霊と協力して語るわけではありません。
- B. その霊と協力して語ることでわたしたちの妨げは、個性と習慣を持ったわたしたちの天然の人です。
- C. わたしたちの妨げに打ち勝つ道は、個性と習慣を持ったわたしたちの天然の人に反対することです。わたしたちはすでに十字架の上に釘づけられたのであり(ローマ6:6. ガラテヤ2:20)、わたしたちは十字架の上にとどまるべきです。
- X. 勝利者は、預言者の予表の成就です：**
- A. ですから、使徒パウロは、召会がどのように集会すべきかについて語る時、預言することを強調し、高く上げています—— I コリント14:1, 3-6, 24, 31, 39。
- B. 預言すること、キリストを人々の中へと語り込むことは、あなたを勝利者とします。
- C. 預言することが、勝利者の機能です。